# 生き方探究教育の推進をめざして

## －小学校と中学校をつなぐ，「生き方探究教育パッケージプログラム」の開発－

河野　由佳

昨年度，一昨年度は，各教科等の「働くこと（勤労観・職業観）」や「生きること」に関わる教育活動に重点をおき，生き方探究教育で育てたい５領域の力の中の，「自己の夢をつくりあげる力（自己理解能力・将来設計能力）」に焦点を当て，各教科等における具体的な指導の在り方を提示した。

今年度は，小・中学校の９年間を通してキャリア発達を支援することができる学習プログラムを開発することにより，子どもたちが自己の在り方を見つめ，生き方を考えることができるのではないかと考え，研究を進めた。

本研究では，「生き方探究教育で育てたい力と各教科等の学習内容との関連表」＜小学校版及び中学校版＞，中学校へとつなぐことができる小学校の「キャリアノート（例）」を提示する。

### １．生き方探究教育で育てたい力

#### （１）生き方探究教育で育てたい，「＜私案＞４領域８の力」

学校において，子ども一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通し，キャリア発達をうながす生き方探究教育の改善・充実が，いま，求められている。

発達段階に応じた体系的な生き方探究教育を進めるために，既に本市において取り組んでいる現行の「5 領域 17 の力」を，社会・職業への円滑な移行に必要な力として文部科学省が平成 22 年 5 月に示した「基礎的・汎用的能力」を加味し，「＜私案＞4 領域 8 の力」に改編した。

| ＜私案＞生き方探究教育で育てたい力 | |
|---|---|
| **4領域** | **8の力** |
| 人とともに社会を生きる力 | ①人間関係形成能力 |
| | ②社会参画能力 |
| 自分を知り自律する力 | ③自己理解能力 |
| | ④自己管理能力 |
| 課題を見つけ解決する力 | ⑤課題発見能力 |
| | ⑥課題解決能力 |
| 夢や希望をつくりあげる力 | ⑦役割認識能力 |
| | ⑧将来設計能力 |

#### （２）「キャリア発達課題（例）一覧表」の改訂

子ども一人一人のキャリア発達の状況を的確に把握し，きめ細かな支援を行うためには，「めざす子どもの姿」を明らかにする必要があると考えた。そこで，保育所・幼稚園から高等学校の段階に亘るキャリア発達課題（例）の一覧表を，「＜私案＞4 領域 8 の力」に基づき，改訂した。

### ２．教育活動の中で進める生き方探究教育

#### （１）各教科等の学習と生き方探究教育との関連

昨年度，各教科等と，この教育で育てたい力との関連がわかる，小学校１～６学年の「学習内容関連表（例）」を作成した。これを基に，既存の教育活動を見直し，展開に工夫を加えた実践授業を行った。その結果，子どもたちは，「働くこと」や「生きること」に関わる学習を通して，自分の将来について考えるきっかけとしたり，働くことに対して，あこがれや夢を抱いたりすることができた。

今年度は，「＜私案＞4 領域 8 の力」に基づいた，中学校１～３学年の「学習内容関連表（例）」を作成した。〈小学校版〉と同様，「京都市立中学校教育課程 京都市スタンダード 指導計画 （平成 18 年度）」を参考に作成している。教科等名・単元名・（○印）単元目標の下に，生き方探究教育の視点から見た「めざす子ども像」を記述しており，教科等の学習を通して，この教育で育てたい力を意識することができるようにしている。また，教科等の枠を超え，それぞれの関連を考えながら，学習を進めることができると考える。

#### （２）「京都まなびの街 生き方探究館」などにおける体験的な学習

体験的な学習は，子ども一人一人が身につけた力をこれからの学習や生活に生かしたり，自分の在り方を見つめ，将来の生き方を考えたりする上で，大きな役割を果たす。そこで，生き方探究館で実施する「モノづくりの殿堂・工房学習」「スチューデントシティ学習」「ファイナンスパーク学習」や，5 日間の職場体験を行う「生き方探究・チャレンジ体験」を，一つのものとしてまとめ，教育課程に位置づけることが大切である。

## ３．キャリア発達の履歴となる「キャリアノート」

### （１）中学校「進路ノート」とは

中学校では，進路学習として，第１学年で「自分自身の理解」，第２学年で「様々な上級学校や職業」，第３学年で「進路選択と将来設計」について学ぶ。その際，「進路ノート」に，学んだことや自分自身と向き合い，考えたことなどを書き留めていく。自分が人生をどう生きるかということは，将来の職業と深い関わりがあることに気づき，卒業時に希望をもって進路選択ができるよう，「進路ノート」を活用することが大切である。

### （２）小学校「キャリアノート」とは

小学校段階においても，自分の将来について考えることは大切なことである。そこで，「働くことや生きることを通して，自らの在り方や生き方を考える」という目的をもったポートフォリオ（「キャリアノート（例）」）を作成した。「進路ノート」と同様，子ども自身が自分の考えや成長を振り返ったり，指導者が子どものキャリア発達を見取り，支援したりする際に活用することは，子どものよりよい自己実現をめざす上で効果があるからである。キャリア発達の履歴となる「キャリアノート」を，学年や校種の枠を超えて中学校へつなぎ，次の学年や将来に生かして欲しい。

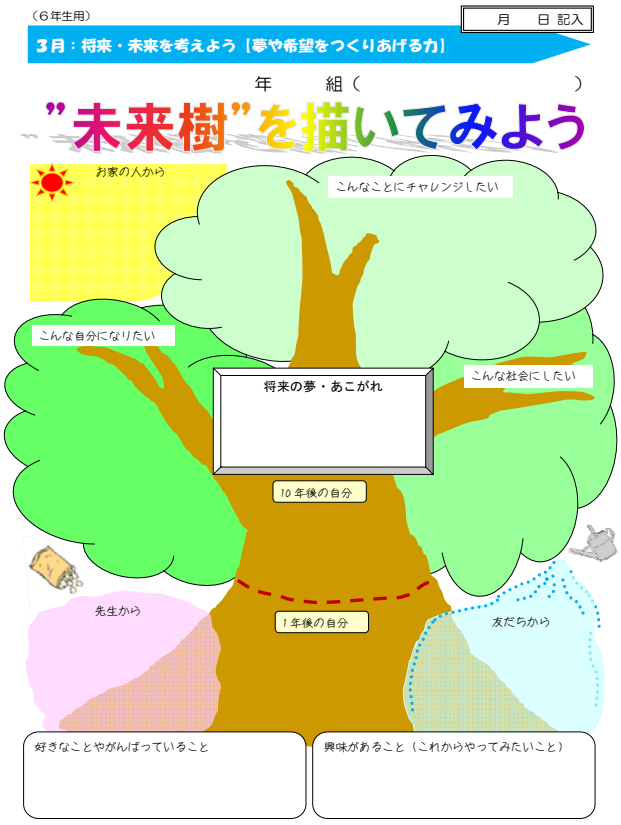


図１「キャリアノート」の一部（第6学年 3月　ー将来・未来を考えよう【夢や希望をつくりあげる力】ー）

## ４．生き方探究教育推進のための方策

### （１）「生き方探究教育パッケージプログラム（例）」の開発

教育課程の中に，体験的な学習を組み込んだ，各教科等で進める生き方探究教育の取組を位置づけ，小・中学校における教育活動を連続的・系統的に進めることができるよう，「生き方探究教育パッケージプログラム（例）」を開発した。

この学習プログラムは，「＜私案＞４領域の力」ごとに作成している。子どもの実態を把握した上で，重点的に育てたい領域を選び，教科等の関連や学年のキャリア発達課題を踏まえながら活用することができると考える。

### （２）研究を終えて

「第二次審議経過報告（平成 22 年５月）」によると，今後の学校におけるキャリア教育の在り方について，以下のようなポイントを示している。

①各学校におけるキャリア教育に関する方針の明確化
②各学校の教育課程への位置づけ
③多様で幅広い他者との人間関係の形成
④社会や経済の仕組みなどについての理解の促進
⑤体験的な学習活動の効果的な活用
⑥キャリア教育における学習状況の振り返りと，教育活動の評価･改善の実施

①について，本研究では，生き方探究教育で育てたい力を整理し直した。また，各学校において，めざす子どもの姿を明らかにすることが大切であると考え，「キャリア発達課題（例）」を改訂した。このことにより，校種間のキャリア発達課題の違いや，系統性を意識した教育活動を展開することができると考える。

②については，小･中学校の各学年における「学習内容関連表（例）」を作成した。このことにより，日々の教育活動の中で，生き方探究教育の取組を進めることが可能になると考える。

③④⑤については，教科学習と生き方探究館などにおける体験的な学習とを体系的につなぐ，「生き方探究教育パッケージプログラム」を開発した。このことにより，体験的な学習がより充実した取組になると考える。

⑥については，年間計画に基づいた「キャリアノート」を作成した。これを中学校へとつなぐことにより，小・中学校の９年間の教育活動の軌跡と自分の成長がわかるポートフォリオとして，活用できると考える。

小・中学校の連携を見据えた本研究が，生き方探究教育の推進の一助となることを願う。